

Quest® NetVault® ビルトイン・プラグ-イン
13.0

ユーザーズ・ガイド



© 2020 日本クエスト・ソフトウェア株式会社

ALL RIGHTS RESERVED.

本書には、著作権によって保護されている機密情報が記載されています。本書に記載されているソフトウェアは、ソフトウェア・ライセンスまたは機密保持契約に基づいて提供されます。本ソフトウェアは、当該契約の条項に準拠している場合限り、使用または複製することができます。本書のいかなる部分も日本クエスト・ソフトウェア株式会社の書面による許可なしに、購入者の個人的な使用以外の目的で、複写や記録などの電子的または機械的ないかなる形式や手段によっても複製または転送することはできません。

本書には、Quest Software 製品に関連する情報が記載されています。明示的、黙示的、または禁反言などを問わず、本書または Quest Software 製品の販売に関連して、いかなる知的所有権のライセンスも付与されません。本製品の使用許諾契約の契約条件に規定されている場合を除き、QUEST SOFTWARE はいかなる責任も負わず、製品に関連する明示的、黙示的または法律上の保証（商品性、特定の目的に対する適合性、権利を侵害しないことに関する黙示的保証を含む）を否認します。QUEST SOFTWARE は、損害が生じる可能性について報告を受けたとしても、本ドキュメントの使用、または使用できないことから生じるいかなる、直接的、間接的、必然的、懲罰的、特有または偶発的な障害（無期限、利益の損失、事業中断、情報の損失も含む）に対しても責任を負わないものとします。Quest Software は、本書の内容の正確性または完全性について、いかなる表明または保証も行わず、通知なしにいつでも仕様および製品説明を変更する権利を有します。Quest Software は、本書の情報を更新する一切の義務を負いません。

本文書の使用に関してご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

日本クエスト・ソフトウェア株式会社
宛先：法律部門
東京都新宿区西新宿 6-10-1
日土地西新宿ビル 13F

日本国内および海外の事業所の情報に関しては、弊社の Web サイト (<https://www.quest.com/jp-ja>) を参照してください。

特許

高度なテクノロジーは Quest Software の誇りです。特許および出願中の特許がこの製品に適用される可能性があります。この製品に適用される特許に関する最新情報については、<https://www.quest.com/jp-ja/legal> の弊社 Web サイトを参照してください。

商標

Quest Software、Quest、Quest ロゴ、QoreStor、および NetVault は、日本クエスト・ソフトウェア株式会社の商標および登録商標です。Quest の商標の詳細な一覧については、<https://www.quest.com/jp-ja/legal/trademark-information.aspx> を参照してください。その他すべての商標および登録商標は各社に帰属します。

凡例

- **警告**：警告アイコンは、潜在的な資産の損害、個人の負傷または死亡の可能性を表しています。
- ! **注意**：注意アイコンは、指示に従わなかった場合に、ハードウェアの損傷やデータの損失につながる可能性があることを表しています。
- i **重要、メモ、ヒント、モバイル、またはビデオ**：情報アイコンは、補足的情報を表しています。

NetVault ビルトイン・プラグイン ユーザーズ・ガイド
更新 - 6 2 0 2 0
ソフトウェア・バージョン - 13.0
NVG-129-13.0-JA-01

目次

前書き	5
Quest® NetVault® ビルトイン・プラグインについて	5
本ガイドについて	6
対象ユーザー	6
参考資料	6
Plug-in for Consolidation の使用	7
バックアップ・コンソリデート方法について	7
デフォルト設定の構成	8
コンソリデート実行後のセーブセットの作成	8
コンソリデート実行後のセーブセットのリストア	9
Plug-in for Data Copy の使用	10
データのコピー方式について	10
デフォルト設定の構成	10
データ・コピー・ジョブの実行	11
重要な注意事項	19
コピーしたデータのリストア	20
Plug-in for Encryption の使用	21
Plug-in for Encryption について	21
暗号化計画の概要	21
暗号化するバックアップの選択	22
暗号化アルゴリズムの選択	22
プライマリまたはセカンダリ・バックアップの暗号化	23
すべてまたは特定のバックアップの暗号化	23
デフォルト設定の構成	24
すべてのバックアップの暗号化	25
ジョブ・レベルの暗号化の実行	25
プライマリ・バックアップの暗号化	25
セカンダリ・コピーの暗号化	25
Plug-in for Databases の使用	27
デフォルト設定の構成	27
NetVault データベースのバックアップ	28
NetVault データベースのリストア	29
前提条件	30
リストア手順	30
Plug-in for Raw Devices の使用	34
Raw デバイスのバックアップ	34

前提条件	34
バックアップ手順	34
Raw デバイス・バックアップのリストア	36
前提条件	36
リストア手順	36
他のディスクおよびパーティションへのデータのリロケート	37
他の NetVault クライアントへのデータのリストア	39
前提条件	39
リストア手順	39
弊社について	40
テクニカル・サポート用リソース	40

前書き

- [Quest® NetVault® ビルトイン・プラグインについて](#)
- [本ガイドについて](#)
- [対象ユーザー](#)
- [参考資料](#)

Quest® NetVault® ビルトイン・プラグインについて

ビルトイン・プラグインは、Quest® NetVault® ビルトイン・プラグイン（NetVault ビルトイン・プラグイン）ソフトウェアに同梱されており、NetVault サーバーまたはクライアント・ソフトウェアのインストール時に、各マシンに自動的にインストールされます。NetVault の標準インストールには、以下のビルトイン・プラグインが含まれます。

- **Quest NetVault Plug-in for FileSystem (Plug-in for FileSystem)** : Plug-in for FileSystem は、重要なファイル・システム・データのリカバリ可能性に対する信頼性を高め、複雑なバックアップ / リカバリ・スクリプトを作成する必要をなくします。直感的なユーザー・インターフェイスと自動ワークフロー・プロセスを利用したこのプラグインは、複数のリカバリ・シナリオに対応した柔軟なバックアップ・ポリシーの設定、構成、および作成を行う、中心的なコンソールとして機能します。フル、増分、差分バックアップのサポートにより、使用するバックアップ手段を選択することができます。このプラグインは、最低限の操作でボリューム全体、個別のパーティション、または個別のディレクトリとファイルをすばやく確実にリストアできるようにして、ダウンタイムを最低限に抑えます。幅広いバックアップ・デバイスが自動的に統合されるため、データの保護およびサイト外への安全な保管によって障害復旧および業務継続性の目標が確実に満たされます。
- **Quest NetVault Plug-in for Consolidation (Plug-in for Consolidation)** : Plug-in for Consolidation では、フル・バックアップとそれに関連付けられた増分バックアップを統合して、複合セーブセットを作成できます。こうしたコンソリデートされたセーブセットは、後続の増分バックアップのベースとして使用できます。たとえば、最初のフル・バックアップ後に、月曜から金曜まで増分バックアップをスケジュールして、土曜日にバックアップ・コンソリデート・ジョブをスケジュールすることができます。土曜日に作成した、コンソリデートされたバックアップを、翌週の増分バックアップのベースとして使用できます。Plug-in for Consolidation は、クライアントのデータをバックアップするのではなく、既存のセーブセットを 1 つにまとめた複合セーブセットを作成します。
- **Quest NetVault Plug-in for Data Copy (Plug-in for Data Copy)** : Plug-in for Data Copy では、オフサイト・ストレージおよびディザスタ・リカバリのために、1 つまたは複数のバックアップ・コピーを作成できます。ピーク時以外の時間にデータをコピーまたは移行するようにジョブをスケジュールして、バックアップ・ウィンドウを縮小することができます。Plug-in for Data Copy は、クライアントのデータをバックアップするのではなく、既存のバックアップのコピーを作成します。
- **Quest NetVault Plug-in for Databases (Plug-in for Databases)** : Plug-in for Databases では、NetVault データベースに保管されているシステム・データ（設定ファイル、システム設定、バックアップ・インデックス、バックアップ・メディア情報、ジョブのスケジュール、ライセンスなど）を保護します。このバックアップを使用して、障害発生後に NetVault サーバーの機能を復元できます。

- **Quest NetVault Plug-in for Encryption (Plug-in for Encryption)** : これらのプラグインは、規制当局のバックアップ・セキュリティ要件を満たすために、CAST-128、AES-256、および CAST-256 アルゴリズムをサポートしています。
- **Quest NetVault Plug-in for Raw Devices (Plug-in for Raw Devices)** : The Plug-in for Raw Devices では、物理ディスクに保管されているデータを保護します。このプラグインにより、複雑なスクリプトを作成しなくても、Master Boot Record (MBR)、システム・パーティション、および個別のユーザー・パーティションをポイント・アンド・クリック操作で復元できます。
- **Quest NetVault Plug-in for Rapid Data Access (Plug-in for RDA)** : Plug-in for RDA により、重複排除アプライアンスの Quest DR Series システムやソフトウェア定義の Quest QoreStor™ ストレージ・デバイス (Linux のみ) など、他の製品で提供されているクライアント側の重複排除機能およびインライン式重複排除機能を使用できるようになります。

本ガイドについて

本ガイドは、以下のプラグインの設定および使用方法を説明しています。

- Plug-in for Consolidation
- Plug-in for Data Copy
- Plug-in for Databases
- Plug-in for Raw Devices

Plug-in for FileSystem の使用についての詳細は、『Quest NetVault Plug-in for FileSystem ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

対象ユーザー

本ガイドは、バックアップ管理者と、組織のバックアップ戦略を設計および実施する責任を担うその他の技術者を対象としています。前提として、NetVault サーバーおよびクライアントを実行するオペレーティング・システムについての十分な知識があることが必要です。

参考資料

- **Quest NetVault インストレーション・ガイド** : このガイドでは、NetVault サーバーおよびクライアント・ソフトウェアのインストール方法について詳しく説明しています。
- **Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド** : このガイドでは、データを保護するための NetVault の設定および使用方法について説明しています。NetVault のすべての特徴と機能に関する総合的な情報を提供しています。
- **Quest NetVault CLI リファレンス・ガイド** : このガイドでは、NetVault コマンドライン・ユーティリティの使用方法について説明します。

これらのガイドは、<https://support.quest.com/technical-documents> からダウンロードできます。

Plug-in for Consolidation の使用

- バックアップ・コンソリデート方法について
- デフォルト設定の構成
- コンソリデート実行後のセーブセットの作成
- コンソリデート実行後のセーブセットのリストア

バックアップ・コンソリデート方法について

このプラグインは、以下の方法でフルバックアップと増分バックアップを統合します。

- i** **メモ:** Plug-in for Consolidation は、Plug-in for FileSystem を使って作成されたフル・バックアップと増分バックアップを統合（コンソリデート）する場合にのみ使用します。

Plug-in for Consolidation は、スナップショットのみの FileSystem バックアップはサポートしていません。

- **バックアップ・ジョブ:** この方法は、選択した増分バックアップまでのすべてのバックアップをまとめて、複合セットを作成します。たとえば、日曜日にフル・バックアップを実行し、月曜日から土曜日までは増分バックアップを実行する場合に、水曜日の増分バックアップで選択したバックアップまですべてのセーブセットをコンソリデートすることができます。

この方法を使って、バックアップ・スケジュールの変更、増分バックアップの保管先メディアの再使用、またはアーカイブの作成を行う前に、コンソリデートされたセーブセットを作成できます。

- **バックアップ・セット:** この方法は、選択したバックアップ・セレクション・セットを使って作成された最新の増分バックアップまでのすべてのバックアップをまとめて、複合セットを作成します。たとえば、日曜日にフル・バックアップを実行し、月曜日から土曜日までは増分バックアップを実行する場合に、適切なバックアップ・セレクション・セットを選択して、そのセットを使って作成された最新の増分バックアップまで、すべてのセーブセットをコンソリデートすることができます。

バックアップ・セット方式が推奨されるのは、バックアップ・コンソリデーション・ジョブを定期実行する場合です。コンソリデート・バックアップの作成ポリシーは、バックアップ・セット方式でのみ定義できます。

- i** **重要:**

- Quest NetVault SmartDisk (NetVault SmartDisk) にコンソリデートおよび保存される増分バックアップに対しては、高度な[重複排除機能を有効にする]バックアップ・オプションを無効にすることをお勧めします。このオプションを選択しないことで、統合プロセス時に重複排除された増分バックアップを元に戻すという不要なオーバーヘッドが発生するのを防ぐことができます。コンソリデート・フル・バックアップ時に重複排除処理を有効にすることができます。
- Quest DR Series システムに保管されているバックアップがバックアップ・コンソリデート・ジョブの対象として選択された場合、重複排除データのオーバーヘッドがパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

デフォルト設定の構成

Plug-in for Consolidation のデフォルト設定を構成するには：

- 1 [ナビゲーション] パネルで、**[設定変更]** をクリックします。**[設定]** ページで、適切なアイコンをクリックして、**[設定]** ページで **[プラグイン・オプション]** をクリックします。
- 2 **[コンソリデート]** で、以下の設定を行います。
 - **最新バックアップから先にソート**：**[NetVault セレクション]** ページのセーブセット・リストは、デフォルトでは、日付と時刻の降順（最新の日付から最も古い日付）にソートされています。リストを昇順にソートするには（最も前の日付から最新の日付）、このチェック・ボックスの選択を解除します。
設定は**[バックアップ・ジョブ]**方式にのみ適用されます。
- 3 **[OK]** または **[実行]** をクリックして設定を保存します。

コンソリデート実行後のセーブセットの作成

バックアップ・コンソリデート・ジョブを実行するには：

- 1 [ナビゲーション] パネルで、**[バックアップ・ジョブ作成]** をクリックします。
[ガイド付き設定] リンクからウィザードを開始することもできます。[ナビゲーション] パネルで、**[ガイド付き設定]** をクリックして、次に **[NetVault 設定ウィザード]** ページで **[バックアップ・ジョブ作成]** をクリックします。
- 2 **[ジョブ名]** に、ジョブの名前を指定します。ジョブの進行やデータのリストア状態を監視する際に識別しやすい、分かりやすい名前を割り当てます。
ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。また、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にするをお勧めします。
- 3 **[セレクション]** リストで既存のバックアップ・セレクション・セットを選択するか、以下の手順に従ってセットを作成します。
 - a **[新規作成]** をクリックして、**[NetVault セレクション]** ページを表示します。
 - b NetVault サーバーを開いて、プラグインのリストから **[コンソリデート増分バックアップ]** を開きます。
 - マネージド・サービス・プロバイダ（MSP）環境では、テナントは次のことを行う必要があります。
NetVaultクライアント・ノードを開いて、プラグインのリストから**[コンソリデート増分バックアップ]**を開きます。
i **メモ**：マネージド・サービス・プロバイダ（MSP）環境では、NetVault クライアントからのコンソリデート増分バックアップ・ジョブの定義および送信が、NetVault Backup 12.2 リリース以降でサポートされます。使用可能なクライアントでコンソリデート用プラグインを使用するには、最新の NetVault サーバーとクライアントをインストールまたはアップグレードする必要があります。
 - c 選択したバックアップまですべてのバックアップをコンソリデートするには：

- **[バックアップ・ジョブ]** ノードを開いて、NetVault マシンのリストから、データをバックアップしたクライアントを開きます。
 - コンソリデートされたセーブセットを作成する、最後のバックアップを選択します。
 - d **バックアップ・セレクション・セット** を使って作成された最新のバックアップまですべてのバックアップをコンソリデートするには：
 - **[バックアップ・セット]** ノードを開いて、NetVault マシンのリストから、セットが作成されたクライアントを開きます。
 - フルおよび増分バックアップの作成に使用されたバックアップ・セレクション・セットを選択します。
 - e **[保存]** をクリックして、**[新規セットの作成]** ダイアログ・ボックスにセットの名前を入力します。**[保存]** をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

i **メモ**：セット名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Linux OS の場合、名前は最大で 200 文字です。Windows OS の場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にするをお勧めします。

- 4 **[プラグイン・オプション]** リストで既存のバックアップ・オプション・セットを選択するか、以下の手順に従ってセットを作成します。
 - a **[新規作成]** をクリックして、**[コンソリデート・オプション]** ページを表示します。
 - b 以下のオプションを設定します。
 - **[クライアントで Consolidate を実行]**：デフォルトの設定では、コンソリデート・ジョブは NetVault サーバーで実行されます。他の NetVault マシン上でジョブを実行するには、リストでクライアントを選択します。
 - c **[保存]** をクリックして、**[新規セットの作成]** ダイアログ・ボックスにセットの名前を入力します。**[保存]** をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。
- 5 スケジュール・セット、ソース・セット、ターゲット・セット、および詳細設定セットを選択または作成します。これらの設定についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。
- 6 ジョブ実行をスケジュールするには、**[保存 & 実行]** をクリックします。**[ジョブ・ステータス]** ページではジョブの進捗をモニタしたり、**[ログ]** ページではログを参照表示することができます。

スケジュールしないでジョブ定義を保存するには、**[保存]** をクリックします。このジョブは、**[ジョブ定義管理]** ページから、表示、編集、または実行することができます。実行しない限り、**[ジョブ・ステータス]** ページにこのジョブは表示されません。

[ジョブ・ステータス]、**[ログ参照]**、**[ジョブ定義管理]** についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

コンソリデート実行後のセーブセットのリストア

リストア・ジョブには、オリジナルのセーブセット（フル、増分、差分セーブセット）を使用することも、これらのバックアップを使って作成された、コンソリデート実行後のセーブセットを使用することも可能です。データをリストアする手順は、オリジナルのセーブセットおよびコンソリデートされたセーブセットの場合と同じです。データのリストアについての詳細は、『Quest NetVault Plug-in for FileSystem ユーザーズ・ガイド』の関連するセクションを参照してください。

Plug-in for Data Copy の使用

- データのコピー方式について
- デフォルト設定の構成
- データ・コピー・ジョブの実行
- コピーしたデータのリストア

データのコピー方式について

Plug-in for Data Copy は、以下の方式を提供しています。

- **バックアップ**：この方式は、選択したバックアップのコピーの作成に利用できます。この方式は、繰り返さないデータ・コピー・ジョブの実行に利用できます。
- **バックアップ・セット**：この方式は、選択したバックアップ・セレクション・セットを使って作成された、最新のバックアップのコピーを作成するために利用できます。バックアップ・セットの方式が推奨されるのは、データ・コピー・ジョブを定期実行する場合です。

i**重要:**

- Plug-in for Data Copy を、**[アーカイブ]** オプションを使って作成されたバックアップのコピー作成に使用することはできません。
- Plug-in for Data Copy を、**セカンダリ・コピー方式** または Plug-in for Data Copy を使って作成されたデータ・コピー・バックアップのコピー作成に使用することはできません。つまり、データ・コピー・バックアップを使って他のデータ・コピーを作成することはできません。

デフォルト設定の構成

Plug-in for Data Copy のデフォルト設定を構成するには：

- 1 [ナビゲーション] パネルで、**[設定変更]** をクリックします。**[設定]** ページで、適切なアイコンをクリックして、**[設定]** ページで **[プラグイン・オプション]** をクリックします。
- 2 **[Datacopy]** で、以下の設定を行います。
 - **[最新バックアップから先にソート]**：**[NetVault セレクション]** ページのセーブセット・リストは、デフォルトでは、日付と時刻の降順（最新の日付から最も古い日付）にソートされています。リストを昇順にソートするには（最も前の日付から最新の日付）、このチェック・ボックスの選択を解除します。
設定は**[バックアップ]**方式にのみ適用されます。
- 3 **[OK]** または **[実行]** をクリックして設定を保存します。

データ・コピー・ジョブの実行

データ・コピー・ジョブを実行するには：

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[バックアップ・ジョブ作成] をクリックします。

[ガイド付き設定] リンクからウィザードを開始することもできます。[ナビゲーション] パネルで、[ガイド付き設定] をクリックして、次に [NetVault 設定ウィザード] ページで [バックアップ・ジョブ作成] をクリックします。
- 2 [ジョブ名] に、ジョブの名前を指定します。ジョブの進行やデータのリストア状態を監視する際に識別しやすい、分かりやすい名前を割り当てます。

ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。また、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にするをお勧めします。
- 3 [セクション] リストで既存のバックアップ・セクション・セットを選択するか、以下の手順に従ってセットを作成します。
 - a [新規作成] をクリックして、[NetVault セクション] ページを表示します。
 - b NetVault サーバーを開いて、プラグインのリストから [データ・コピー] を開きます。
 - マネージド・サービス・プロバイダ (MSP) 環境では、テナントは次のことを行う必要があります。

NetVaultクライアント・ノードを開いて、プラグインのリストから[データ・コピー]を開きます。
 - i** **メモ：** マネージド・サービス・プロバイダ (MSP) 環境では、NetVault クライアントからのデータ・コピー・ジョブの定義および送信が、NetVault 12.2 リリース以降でサポートされます。使用可能なクライアントでデータ・コピー・プラグインを使用するには、最新の NetVault サーバーとクライアントをインストールまたはアップグレードする必要があります。
 - c 選択したバックアップをコピーするには：
 - [バックアップ] ノードを開いて、NetVault マシンのリストから、データをバックアップしたクライアントを開きます。
 - セーブセットの作成に使用されたプラグインを開き、コピーするセーブセットを選択します。
 - d バックアップ・セクション・セットを使って作成された最新のバックアップをコピーするには：
 - [バックアップ・セット] ノードを開いて、NetVault マシンのリストから、セットが作成されたクライアントを開きます。
 - セットの作成に使われたプラグインを開き、次にフルおよび増分バックアップの作成に使用されたバックアップ・セクション・セットを選択します。
 - e [保存] をクリックして、[新規セットの作成] ダイアログ・ボックスにセットの名前を入力します。[保存] をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。
 - i** **メモ：** セット名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Linux OS の場合、名前は最大で 200 文字です。Windows OS の場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にするをお勧めします。
- 4 [プラグイン・オプション] リストで既存のバックアップ・オプション・セットを選択するか、以下の手順に従ってセットを作成します。
 - a [新規作成] をクリックして、[データ・コピー・オプション] ページを表示します。

b 【コピーの種類】で、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
フル・バックアップをコピーして、独立したインデックス情報を持つコピーを作成	<p>サイト外での保管用にコピーを作成する場合は、このオプションを推奨します。</p> <p>データ・コピー方式では、バックアップがセグメントに分割されて、それらのセグメントがバックアップ・デバイスにコピーされます。リストア時には、データを復元するためにプライマリ・バックアップまたはセカンダリ・コピーが使用されます。プライマリ・バックアップおよびセカンダリ・コピーのセグメントは交換できません。そのため、プライマリ・コピーが暗号化されていなくてもデータ・コピーで暗号化を使用できます。このオプションは、プライマリ・バックアップで重複排除オプションを使用する場合に役立ちます。</p> <p>[データ・コピー]オプションを使って、フル・バックアップや増分バックアップのコピーを作成することができます。この方式を用いると、フル・バックアップと増分バックアップとの間のすべてのリンクが削除され、コピーの保存期間を新規に設定できます。</p> <p>メモ: 通常の増分バックアップのデータ・コピーを作成する前に、最初のフル・バックアップおよびバックアップ・シーケンス内の以前の増分バックアップのコピーを作成する必要があります。そうしないと、プラグインがエラーを報告します。詳細は、「重要な注意事項」を参照してください。</p>
バックアップの複製	<p>このオプションが推奨されるのは、セーブセットを他のメディアに移動する場合です。</p> <p>複製方式では、元のバックアップにリンクしている正確なコピーを作成します。この方式では、バックアップがセグメントに分割されて、それらのセグメントがストレージ・デバイスにコピーされます。リストア時に、プライマリ・バックアップおよびセカンダリ・コピーのセグメントは交換できます。リストア時に暗号化されていないセグメントと暗号化されたセグメントを混在させることはできないため、複製時に暗号化の有効または無効を指定することはできません。複製方式では、元のセーブセットが暗号化されている場合、暗号化されたコピーが作成されます。元のセーブセットが暗号化されていない場合、暗号化されていないコピーが作成されます。</p> <p>このオプションを使って、フル・バックアップや増分バックアップのコピーを作成することができます。複製方式で作成されたセーブセットは、オリジナルのセーブセット情報を自動的に共有します。</p> <p>メモ: 増分バックアップのコピーのリストア時、NetVaultはオリジナルのフル・バックアップを必要とします。[リストア・ジョブ作成]ページでは、オリジナルと複製のバックアップに対して1つのセーブセットのみが表示されます。</p>
オリジナルのバックアップ・セーブセットの名前を使用	<p>デフォルトで、[フル・バックアップをコピーして、独立したインデックス情報を持つコピーを作成]オプションを使って作成されたコピーには新しいセーブセット名が割り当てられます。この名前はジョブ名を基に作成されます。</p> <p>そのようなコピーに対してオリジナルのセーブセット名を使用したい場合は、このチェック・ボックスを選択します。</p>

オプション	説明
ストリームにメディア共有を許可	<p>このチェック・ボックスはデフォルトで選択されていません。このオプションは、[バックアップの複製]と併用できます。</p> <p>マルチストリーム・バックアップの複製を作製するときは、このオプションを使用して、複数のデータ・ストリームを順次データ・ストリームに変換できます。このチェック・ボックスを選択しない場合は、各ストリームが別々に書き込まれます。</p> <p>ディスクベースのデバイスを使用して複製バックアップをリストアする場合は、マルチストリームが適しています。その場合、このチェック・ボックスを選択する必要はありません。</p> <p>テープ・デバイスの場合に[ストリームにメディア共有を許可]チェック・ボックスを選択しないと、各データ・ストリームは、別々のメディアをターゲットにします。ストリームの書き込みに使用されたテープは、利用可能なメディアから除外されます。テープに十分な容量が残っていないと、ジョブが失敗します。複製バックアップのリストアにテープ・デバイスを使用する場合に、このチェック・ボックスを選択すると、使用するメディアを最小限にすることができます。</p>
常にセットの最後のフル・バックアップを取得	<p>このオプションと[バックアップ・セット]方式を使用して、特定のバックアップ・セレクション・セットを使って実行された最後のフル・バックアップのコピーを作成することができます。</p> <p>このオプションを選択した場合、増分バックアップはコピーされません。</p>
タイプに関係なくセットの最新のバックアップを取得	<p>このオプションと[バックアップ・セット]方式を使用して、前回のバックアップのコピーを、そのタイプ(フル・バックアップまたは増分バックアップ)に関係なく作成することができます。</p> <p>このオプションにより、増分バックアップのコピーを作成することができます。</p> <p>メモ: このオプションを使用する場合、そのバックアップ・シーケンスの次のプライマリ・バックアップ(フルまたは増分)の前に、データ・コピー・ジョブを実行する必要があります。そうしないと、そのプライマリ・バックアップのコピーが作成されます。</p>

オプション	説明
タグ名	<p>増分バックアップ・シーケンスの複数コピーを作成する場合、各コピーを識別するためのタグを提供する必要があります。タグには任意の文字列値を指定できます。タグがないと、プラグインはバックアップ・シーケンスの複数のコピーを区別することができません。</p> <p>リストアのデータ選択ページで、Plug-in for Data Copyで作成されたセーブセットには、以下のようにラベルが付けられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • タグなしで作成されたデータ・コピー: <code><Saveset Name> - DataCopy of <Selection Set Name> (Saveset <#>) <Timestamp></code> • タグ付きで作成されたデータ・コピー: <code><Saveset Name> - DataCopy of <Saveset #>, Tag '<User Tag>' (Saveset <#>) <Timestamp></code>
	<p>例:</p> <p>このオプションの使用例を以下に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 バックアップ・セレクション・セットを作成し、セットを使ってフル・バックアップを実行します。 2 デバイス1を使って、セットのコピーを作成します。コピーの作成時に、[データ・コピー・オプション]ページで一意的タグ名を指定します。 3 デバイス2を使って、セットのセカンダリ・コピーを作成します。コピーの作成時に、[データ・コピー・オプション]ページで一意的タグ名を指定します。 4 セットの増分バックアップを実行します。 5 増分バックアップに対して、ステップ2と3を繰り返します。 6 リストア・ジョブのデータ選択ページに、オリジナルのバックアップとバックアップ・シーケンスの2つのコピーの両方が表示されます。 7 特定のコピーからデータをリストアするには、目的のセーブセットを選択します。各コピーはタグ名を使って識別できます。 <p>c 必須のその他のオプションを設定します。</p>

オプション	説明
移動(オリジナル・バックアップの破棄)	<p>コピーを作成する代わりにバックアップを移動するには、このチェック・ボックスを選択します。データをコピーした後で、NetVaultがオリジナルのバックアップのインデックスを削除します。</p> <p>メモ: Plug-in for File Systemバックアップのコピーを作成する際には、関連付けられた増分または差分バックアップのないフル・バックアップについてのみ[移動]オプションを選択できます。増分または差分バックアップに関係があるフル・バックアップに対してこのオプションを選択すると、NetVaultがセカンダリ・コピーを正常に作成しますが、プライマリまたはオリジナル・バックアップのインデックスは削除されません。そのようなバックアップについては、コピーの作成後に、手動でプライマリまたはオリジナルのバックアップをリタイアする必要があります。</p>

オプション

説明

この機能をサポートするデバイス間で最適レプリケーションを使用

最適レプリケーション機能により、データ・コピーまたは複製操作時に、同じタイプのあるデバイスから別のデバイスに、重複排除されたデータを直接転送することができます。これによりセカンダリ・コピーを効率的に作成することができます。また、以下の利点があります。

- 重複排除形式でデータをコピーします。これにより、ネットワーク経由で転送されるデータ量が大幅に軽減されます。
- NetVaultサーバーのリソースを使用せずに、レプリケーション元からレプリケーション先に直接データをコピー可能です。

以下のストレージ・デバイスが、最適レプリケーションをサポートしています。

- **Quest DR Seriesシステム**:最適化したレプリケーションを実施するには、ソースおよびターゲットのQuest DR Seriesシステムの両方で、同じリリース・バージョンのDR OSが稼働している必要があります。異なるリリースのOSが稼働しているシステム間でのレプリケーションはサポートされていません。

たとえば、DR OS 3.xが稼働しているソース・システムからデータをレプリケートするには、ターゲット・システムでも同じリリースのOSが稼働している必要があります。ターゲット・システムでDR OSリリース2.0.xまたは3.0.xが稼働している場合、レプリケーションは失敗します。

メモ: Quest DR Seriesシステム上で最適化されたレプリケーションとバックアップを同時に実行すると、バックアップのスループットが低下します。

- **Quest QoreStor**:Linuxでのみサポートされています。
- **NetVault SmartDiskデバイス**:レプリケーションの最適化を実行するには、NetVault SmartDisk 2.0以降が必要です。

レプリケーション元およびレプリケーション先のNetVault SmartDiskサーバーに設定されているログイン認証情報が一致しないと、レプリケーションに失敗します。レプリケーションを成功させるには、次のいずれかを実行します。

- 両方のNetVault SmartDiskサーバーでWebDAV認証を無効にします。
- ソース・サーバーのみWebDAV認証を有効にします。
- 両方のサーバー上で同じログイン認証情報を設定します。

メモ: NetVault SmartDiskから他のデバイス・タイプ(例:VTL、Quest DR Seriesシステム、またはData Domainシステム)にバックアップをコピーする際には、このチェック・ボックスの選択を解除する必要があります。このチェック・ボックスを選択解除しないと、データ・コピーまたは複製ジョブは、失敗するか応答しくくなります。

- **DD Boost 対応 Data Domain システム**:2つのDD Boost 対応 Data Domain システム間でのセカンダリ・コピー・バックアップで、DD Boost が提供する管理ファイル・レベルの複製機能を使用します。ファイル・レベルのレプリケーションには、DD Boost Replicatorライセンスが必要です。このライセンスは、レプリケーション元およびレプリケーション先の両方のData Domainシステムにインストールする必要があります。

メモ: ソースとターゲットのData Domainシステムで稼働しているData Domain OSのバージョンが異なる場合にレプリケーションを成功させるには、ターゲット・システム側で上位バージョンのOSを稼働する必要があります。

オプション	説明
ターゲット・メディア取得前のソース・メディアの取得	このチェック・ボックスを選択すると、Plug-in for Data Copyは、データ・コピーおよび複製バックアップ用にターゲット・メディアの取得を試行する前にソース・メディアを取得しようとします。
データ・コピーの最大ストリーム数	データ・コピー・ジョブで生成できる最大同時ストリーム数を入力または選択します。デフォルトでは、単一のデータ・ストリームが生成されて、データ・アイテムが順番にコピーされます。
メディア要求タイムアウト	NetVaultがバックアップ・メディアを待機する時間を入力または選択します。このタイムアウト値は、分単位で指定します。指定した間隔内に必要なメディアを使用できないと、そのジョブは中止されます。 デフォルト値は、10分間です。この値に「0」を設定すると、メディアが提供されるか、ジョブが手動で中止されるまで、データ・コピー・ジョブは無期限で待機します。 設定可能な最大のタイムアウト期間は1440分(24時間)です。この設定により、NetVaultで日次ジョブの次のインスタンスが実行される前に、現在のインスタンスが中止されます。 メモ: (Plug-in for Data Copyを使用して作成した)フェーズ1のデータ・コピー・ジョブのメディア要求タイムアウトは、ターゲット・セットの[メディア要求タイムアウト]設定ではなく、バックアップ・オプション・セットの[メディア要求タイムアウト]設定で制御されます。フェーズ2(セカンダリ・コピー)データ・コピーおよび複製ジョブのメディア要求タイムアウトは、バックアップ詳細設定セットで指定された[メディア要求タイムアウト]によって管理されます。
クライアントでデータ・コピーを実行	デフォルトで、データ・コピー・ジョブはNetVaultサーバーで実行されます。他のNetVaultマシン上でジョブを実行するには、リストでクライアントを選択します。

d [バックアップ寿命] で、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
オリジナルの寿命を使用	オリジナルのセーブセットの保持期間を使用する場合は、このオプションを選択します。
[詳細設定]タブの[バックアップ寿命]を使用	データ・コピーの保存期間をユーザー指定する場合は、このオプションを選択して、次に[バックアップ詳細設定]セットで保持期間を選択します。これらのオプションについての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

e [スナップショット・オプション] は、データ・コピー方法 ([フル・バックアップをコピーして、独立したインデックス情報を持つコピーを作成] オプション) と一緒に使用できます。

永続的スナップショットを使用するバックアップのコピーを作成する場合は、Plug-in for Data Copyを設定して、ディスクまたはテープベースのストレージ・デバイスにセーブセットのコピーを作成し、オプションで元のスナップショットへの参照を保持するか、参照を削除することができます。

オプション	説明
スナップショットの参照を削除する	元のスナップショットへの参照を含めずにセーブセットのコピーを作成するには、このオプションを使用します。
スナップショットの参照を保持する	セーブセットのコピーを作成し、元のスナップショットへの参照をバックアップ・インデックスに含めるには、このオプションを使用します。 コピーからデータをリストアする場合、プラグインは、スナップショットをマウントして、スナップショットからデータをリストアしようとします。 このようなコピーを使用してデータをリストアするとき、プラグインは、元のスナップショットからデータのリストアを試みます。ストレージメディア上に保存されているコピーは、スナップショットが使用できない場合にのみ使用されます。

- i

メモ： データ・コピーに選択されたセーブセットに関連付けられているスナップショットがない場合は、スナップショット・オプションは無視されます。これらのオプションは、フェーズ 2 データ・コピーのバックアップでは使用できません。

- f マルチ・ストリーム・ジョブを実行するには、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
データ・コピーの最大ストリーム数	データ・コピー・ジョブで生成できる最大同時ストリーム数を入力します。
メディア要求タイムアウト	<p>NetVaultがバックアップ・メディアを待機する時間を入力または選択します。このタイムアウト値は、秒単位で指定します。指定した間隔内に必要なメディアを使用できないと、そのジョブは中止されます。</p> <p>デフォルト値は、10分間です。この値に「0」を設定すると、メディアが提供されるか、ジョブが手動で中止されるまで、データ・コピー・ジョブは無期限で待機します。</p> <p>設定可能な最大のタイムアウト期間は1440分(24時間)です。この設定により、NetVaultで日次ジョブの次のインスタンスが実行される前に、現在のインスタンスが中止されます。</p> <p>メモ： (Plug-in for Data Copy を使用して作成した) フェーズ 1 のデータ・コピー・ジョブのメディア要求タイムアウトは、ターゲット・セットの 【メディア要求タイムアウト】 設定ではなく、バックアップ・オプション・セットの 【メディア要求タイムアウト】 設定で制御されます。フェーズ 2 (セカンダリ・コピー) データ・コピーおよび複製ジョブのメディア要求タイムアウトは、バックアップ詳細設定セットで指定された 【メディア要求タイムアウト】 によって管理されます。</p>

- g **【保存】** をクリックして、**【新規セットの作成】** ダイアログ・ボックスにセットの名前を入力します。**【保存】** をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

- 5 スケジュール・セット、ソース・セット、ターゲット・セット、および詳細設定セットを選択または作成します。これらの設定についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

i **メモ：** 複製バックアップとデータ・コピー・バックアップを実行するときは、元のセーブセットまたは同じバックアップのコピーを含むメディア・アイテムを使用できません。NetVault ではこれらのメディア・アイテムが除外されるため、コピーと元のバックアップが同じメディア・アイテムに存在することはありません。

メディアのコンセプトは、ディスク・ベース・デバイスには適用されません。元のセーブセットをディスクベース・デバイスに保存する場合、複製ジョブまたはデータ・コピー・ジョブをそのバックアップに実行するとき、NetVaultではそのデバイスが除外されません。

i **メモ：** マルチ・ストリーム・バックアップを実行するときは、**【バックアップを必ずターゲット・メディアの先頭に書き込み】** チェック・ボックスを選択しないでください。マルチ・ストリーム・バックアップでこのチェック・ボックスをオンにすると、各データ・ストリームでは別々のメディアがターゲットとなり、そのメディア・アイテムで最初のバックアップとして存在することになります。バックアップで5つのストリームが生成される場合は、5つのブランク・メディア・アイテムまたは新しいメディア・アイテムの取得がジョブによって試されます。

このオプションはディスク・ベース・ストレージ・デバイスには適用されません。

- 6 ジョブ実行をスケジュールするには、**【保存 & 実行】** をクリックします。**【ジョブ・ステータス】** ページではジョブの進捗をモニタしたり、**【ログ】** ページではログを参照表示することができます。

スケジュールしないでジョブ定義を保存するには、**【保存】** をクリックします。このジョブは、**【ジョブ定義管理】** ページから、表示、編集、または実行することができます。実行しない限り、**【ジョブ・ステータス】** ページにこのジョブは表示されません。

【ジョブ・ステータス】、**【ログ参照】**、**【ジョブ定義管理】** についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

重要な注意事項

- 永続的なスナップショットのみのバックアップのデータ・コピーまたは複製では、インデックスのみがコピーされ、データの冗長コピーは作成されません。
- 任意のバックアップ・シーケンスのデータ・コピーを作成する場合、コピーのデータ整合性を維持するために、シーケンス内の各バックアップのコピーを作成する必要があります。オリジナルのフル・バックアップまたは以前の増分バックアップのコピーを作成せずに、増分バックアップのコピーを作成しようとすると、以下のエラーが報告されジョブが失敗します。

「この増分バックアップのデータ・コピーを作成できません。この増分バックアップが利用する、以前データ・コピーが作成されたバックアップが存在しません。一連のデータ・コピーが作成されたことを確認してください。」

- Plug-in for File System は、2種類の増分バックアップをサポートしています。通常の増分バックアップとダンプ・タイプ増分バックアップです。
 - 通常の増分バックアップは、最初のフル・バックアップおよび以前の増分バックアップにリンクされます。通常の増分バックアップのデータ・コピーを作成する前に、最初のフル・バックアップおよびバックアップ・シーケンス内の以前の増分バックアップのコピーを作成する必要があります。そうしないと、プラグインがエラーを報告します。
 - ダンプ・タイプ増分バックアップは、スタンドアロンの増分バックアップです。これらのバックアップは、バックアップ・シーケンス内の他のバックアップのコピーを作成せずに、コピーすることができます。
- バックアップ詳細設定の **[暗号化を有効にする]** は、**[フル・バックアップをコピーして、独立したインデックス情報を持つコピーを作成]** オプションと一緒にしか使用できません。

プライマリ・コピーが暗号化されている場合、**[暗号化を有効にする]** チェック・ボックスの指定にかかわらず、データ・コピー方式により暗号化されたセーブセットが自動的に作成されます。したがって、このオプションが役立つのは、暗号化されていないプライマリ・コピーを暗号化してセカンダリ・コピーを作成するときだけです。

[暗号化を有効にする] チェック・ボックスを選択しても、暗号化されたプライマリ・バックアップは再暗号化されません。

暗号化されたデータ・コピーからデータをリストアする場合は、プライマリ・コピーの暗号化キーを使用する必要があります。

- **[常にセットの最後のフル・バックアップを取得]** オプションは、NetVault Plug-in for NetWare を使って実行されたバックアップと互換性がありません。Plug-in for Data Copy は、フル・バックアップまたは増分バックアップにかかわらず、前回のバックアップのコピーを作成します。
- Plug-in for Data Copy は、NDMP レベル 0 のフル・バックアップとレベル 1-9 の増分バックアップを識別することはできません。Plug-in for Data Copy では、どのレベルの NDMP バックアップもフル・バックアップとして表示されます。そのため、最新のセーブセットのコピーを作成しようとすると、**[フル・バックアップをコピーして、独立したインデックス情報を持つコピーを作成]** オプションと **[常にセットの最後のフル・バックアップを取得]** オプションが選択されている場合には、Plug-in for Data Copy により（すべてのレベルの）最後のバックアップのコピーが作成されます。そのバックアップ・セレクション・セットに対して、Level 0 のバックアップのコピーは作成されません。
- NetVault Server 10.0.5 以降では、Plug-in for Data Copy でインデックス・バージョン 4 を作成します。これは、以前の NetVault と互換性がありません。NetVault 10.0.1 またはそれ以前のバージョンを実行するクライアントは、このインデックス・ファイルを読み込めません。NetVault Server 10.0.5 以降で生成されたデータ・コピー・セーブセットをリストアするには、クライアントで NetVault 10.0.5 以降の実行が必要です。

コピーしたデータのリストア

リストアの場合、オリジナルのセーブセットまたはデータ・コピーを使用できます。データのリストアは、オリジナルのセーブセットとデータ・コピーと同様の手順で実行することができますが、オリジナルのセーブセットの作成に使用したプラグインによって手順は異なります。データのリストアについての詳細は、関連するプラグインのユーザーズ・ガイドを参照してください。

Plug-in for Encryption の使用

- [Plug-in for Encryption について](#)
- 暗号化計画の概要
- デフォルト設定の構成
- すべてのバックアップの暗号化
- ジョブ・レベルの暗号化の実行

Plug-in for Encryption について

NetVault には、次の 3 つの暗号化オプションがあります。

- **CAST-128** : CAST-128 は 12 または 16 ラウンドの Feistel ネットワークで、ブロック・サイズは 64 ビット、キー・サイズは 40 ~ 128 ビットですが 8 の倍数でのみ使用できます。
- **CAST-256** : CAST-256 は CAST-128 と同じエレメントを使用しますが、ブロック・サイズは 64 ビットの 2 倍となる 128 ビットに対応しています。利用可能なキー・サイズは 128、160、192、224、および 256 ビットです。CAST-256 は、汎用 Feistel ネットワーク内にアレンジされた、48 ラウンド構成（12 「クワッド・ラウンド」と呼ばれることもある）です。
- **AES-256** : AES は米国政府が採用している暗号化標準規格です。標準規格は 3 つのブロック暗号 AES-128、AES-192、および AES-256 で成り立っています。各 AES 暗号はブロック・サイズが 128 ビットで、キー・サイズはそれぞれ 128、192、および 256 ビットになります。

i **メモ** : CAST-128 および CAST-256 暗号化アルゴリズムは、米国連邦情報処理規格（FIPS）の要件に準拠していません。これらのアルゴリズムは、レガシー・データのリストア用に提供されています。FIPS に準拠するには、AES-256 アルゴリズムを使用してください。

これらのオプションは、ネットワーク上でバックアップ・デバイスに転送されるデータが暗号化されます。このデータは、クライアントにリストアされるまで暗号化されたままです。また、暗号化がセカンダリ・バックアップのみに必要な場合、暗号化するかどうかをジョブ単位で指定できます。たとえば、プライマリ・バックアップは暗号化せず、セカンダリ・コピー・バックアップだけを暗号化することができます。これにより、バックアップ所要時間を短縮できます。さらに、ディスク・ベースのストレージ・デバイスの使用時に、ジョブ単位重複排除機能を併用することにより、重複排除されていない非暗号化データから重複排除済みデータを抽出できます。これにより、重複排除の割合と重複排除処理のパフォーマンスを最適化できます。

Plug-in for Encryption と互換性がない NetVault プラグインの一覧について詳しくは、それぞれのリリース・ノートを参照してください。

暗号化計画の概要

暗号化計画を策定する場合、以下の事項を決定する必要があります。

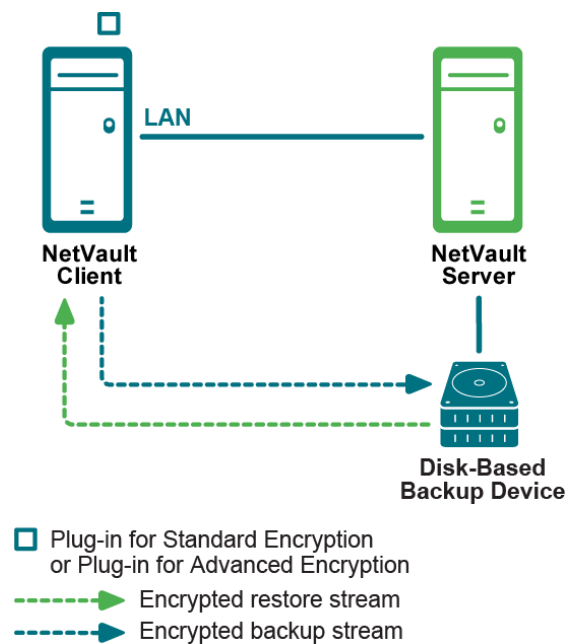
- 暗号化されるバックアップ。
- 必要な暗号化アルゴリズム。

- プライマリ・バックアップまたはセカンダリ・バックアップの暗号化が必要かどうか。
- すべてのバックアップに対して暗号化を有効にするか、またはジョブ単位で有効にするか。

暗号化するバックアップの選択

NetVault は、ソフトウェアベースの暗号化を実行します。バックアップ・ストリームは、プラグインが有効になっている NetVault サーバーまたはクライアントにより、選択したアルゴリズムを使って暗号化されます。暗号化されたデータ・ストリームはネットワーク経由でバックアップ・デバイスに転送されます。デバイスでは、暗号化状態で保持されます。リストア時には、暗号化されたバックアップがバックアップ・デバイスからターゲット NetVault クライアントに転送され、プラグインの復号化が行われます。

図 1. 暗号化バックアップとリストア・パス



バックアップの暗号化および復号化プロセスは、NetVault サーバーまたはクライアントのプラグインが行います。これらのプロセスは、マシン上のリソースを消費します。暗号化プロセスによりバックアップの実行時間が長くなります。また、復号化プロセスによりリストアの実行時間が長くなります。暗号化が必要なバックアップを判断するには、クライアントのパフォーマンス、バックアップ・ウィンドウ、およびリストア時間に与える影響を考慮する必要があります。簡単に言うと、パフォーマンス、バックアップ・ウィンドウ、およびリストア時間に与える影響よりもセキュリティ要件の方が重要な場合にのみ、バックアップを暗号化する必要があります。

暗号化アルゴリズムの選択

NetVault には、バックアップの暗号化と復号化に使用できる複数のアルゴリズムが用意されています。各 NetVault クライアントが別の暗号化アルゴリズムを使用することはできますが、ある特定のクライアントからのバックアップにはすべて同じアルゴリズムを使用する必要があります。

リストア時には、バックアップ時に使用したのと同じ暗号化アルゴリズムを使用する必要があります。この時点以降は、前に使用したのと別のアルゴリズムを使用することも可能です。ただし、以前のアルゴリズムを使用したバックアップのリストア時には、データを正しくリストアするために、バックアップが使用したアルゴリズムを NetVault サーバーまたはクライアントに設定する必要があります。たとえば、以前のバックアップでは CAST-128 アルゴリズムを使用しており、現在のバックアップは AES-256 アルゴリズムを使用している場合、以前のバックアップのリストア時には、サーバーまたはクライアントのプラグインが CAST-128 アルゴリズムを使用するように設定しないと、リストアが失敗してしまいます。

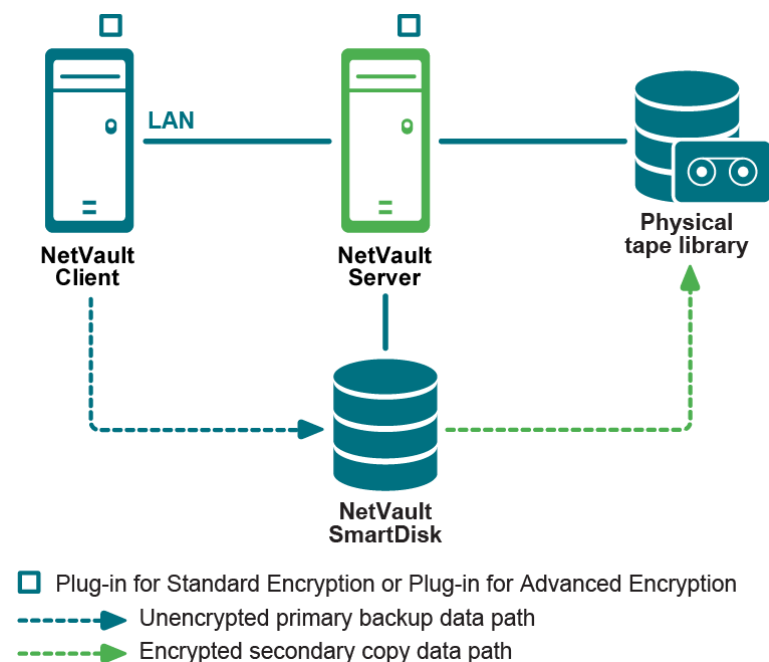
プライマリまたはセカンダリ・バックアップの暗号化

バックアップ・ジョブは、プライマリ・バックアップおよびセカンダリ・コピーの1つ、または必要に応じて2つのフェーズから成り立っています。プライマリ・バックアップは、選択したバックアップ・デバイスへのデータ・ストリームのバックアップです。これらのバックアップは、高速なリストアを可能にするためにローカル・ストレージ・デバイスに対して行われます。セカンダリ・コピーはプライマリ・バックアップの別のバックアップ・デバイスへの複製またはデータ・コピーです。これらのバックアップは、リモートのディスク・ベースのストレージ・デバイスまたはディザスタ・リカバリの目的でサイト外にテープを保管する物理テープ・ライブラリをターゲットにしています。

セキュリティ要件により、プライマリ・バックアップとセカンダリ・コピーの両方を暗号化する必要があるかどうかを判断します。たとえば、セキュリティ要件に社内ネットワーク外に送信または保管されるバックアップのみ暗号化が必要であると規定されている場合は（遠隔地にある物理テープに保管されるバックアップなど）、物理テープ・ライブラリを対象にしたセカンダリ・コピー・バックアップのみを暗号化します。ただし、セキュリティ要件にネットワーク上に伝送されるデータ、またはディスク・ベースのバックアップ・デバイスが社内ネットワーク内に存在している場合でもそのデバイスに保管するデータを暗号化する必要があると規定されている場合は、プライマリ・バックアップとセカンダリ・コピーの両方を暗号化します。

暗号化データは、重複排除がうまく機能しません。そのため、重複排除をサポートしているストレージ・デバイスに対してプライマリ・バックアップを実行する場合は、セカンダリ・コピー・バックアップのみ暗号化する方法が有益です。この方法により、プライマリ・バックアップを重複排除し、セカンダリ・バックアップを暗号化することで、暗号化と重複排除の両方の利点を活用することができます。

図 2. 暗号化されないプライマリ・バックアップと暗号化されたセカンダリ・コピー・バックアップ



すべてまたは特定のバックアップの暗号化

Plug-in for Encryption を使用すると、プラグインがインストールされている NetVault サーバーまたはクライアントのすべてのバックアップの暗号化、または特定のジョブの暗号化を有効にすることができます。また、プライマリ・バックアップのみまたはセカンダリ・バックアップのみに対して有効にすることもできます。この方法により、暗号化と重複排除の両方の利点を活用することができます。たとえば、プライマリ・バックアップで重複排除を行って、セカンダリ・コピーで暗号化することができます。

ジョブ・レベルの暗号化オプションは、以下のような状況に利用できます。

- サーバーまたはクライアントにインストールされているプラグインが、Plug-in for Encryption と互換性がない場合。
- サーバーまたはクライアントの特定のバックアップのみ暗号化が必要な場合。
- プライマリ・バックアップの暗号化は不要で、オフサイトで保護するセカンダリ・バックアップの暗号化が必要である場合。
- プライマリ・バックアップが重複排除機能をサポートしているストレージ・デバイスを対象としている場合。

以下の状況下では、NetVault サーバーおよびクライアントがそのバックアップすべてを暗号化するように設定する必要があります。

- サーバーまたはクライアントにインストールされているすべてのプラグインが、Plug-in for Encryption と互換性がある。
- サーバーまたはクライアントのすべてのバックアップに暗号化が必要である。
- プライマリおよびセカンダリ・バックアップの両方に暗号化が必要である。
- 重複排除用にバックアップが選択されていない。

デフォルト 設定の構成

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[設定変更] をクリックします。
- 2 [設定] ページで、利用可能な [サーバー] または [クライアント 設定] をクリックします。
- 3 [プラグイン] で [暗号化] をクリックします。
- 4 以下の設定を行います。

設定	説明
Encrypt ALL Backups on this Client	<p>Plug-in for EncryptionがクライアントにNetVaultで自動的にインストールされると、以下のような作業を行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • そのクライアントで実施されるすべてのバックアップを暗号化する。 • そのクライアントで実施される特定のバックアップを暗号化する。 <p>すべてのバックアップの暗号化を有効にするには、このチェック・ボックスを選択します。すべてのバックアップの暗号化を有効にすると、ジョブ単位の設定を変更することはできません。</p> <p>特定のバックアップの暗号化を有効にする方法については、「Performing job-level encryption」を参照してください。</p> <p>メモ: NetVaultサーバーまたはクライアントを元とするバックアップに対してジョブレベルの暗号化を実行するには、すべてのバックアップを暗号化するようにプラグインを設定しないでください。</p>
Encryption Key String	<p>NetVaultマシンの暗号キーとして使用する文字列を入力します。</p> <p>プラットフォームに応じて、使用できる文字やパスワード長が異なります。Questは、32文字以下のパスワードを使用することをお勧めします。「A～Z」、「a～z」「0～9」、および「_」の文字セットを使用できます。プラットフォームによっては、これらの基準に従わない鍵文字列を使用できることはありますが、他の環境では使用できないこともあります。</p>
確認	ここに暗号化文字列を再入力して、正しいことを確認します。
Available Encryption Algorithms	バックアップおよびリストアに対して使用する、暗号アルゴリズムを選択します。リストには、以下のオプションが含まれます。AES-256、CAST-128、およびCAST-256。

- 5 新しい設定を保存してダイアログ・ボックスを閉じるには、[適用] をクリックします。

- i** **メモ**：プラグインで実行される暗号化バックアップは元の場所、または新しいターゲット・マシン上にリストアできます。どちらの場合でも、ターゲット・マシン上にプラグインをインストールする必要があり、またバックアップ実行時と同じように設定する必要があります（同じ**暗号鍵文字列**と**暗号化アルゴリズム**を使用）。

すべてのバックアップの暗号化

特定の NetVault クライアントから実行されるすべてのバックアップの暗号化が有効になっている場合、バックアップの暗号化に関するその他の要件はありません。バックアップおよびリストア手順について詳しくは、関連するプラグインの**ユーザーズ・ガイド**を参照してください。

ジョブ・レベルの暗号化の実行

ジョブ・レベルの暗号化を使用して、プライマリ・バックアップ、セカンダリ・コピー、またはその両方を暗号化することができます。セキュリティ要件で、ネットワーク伝送時、またはディスク・ベースのバックアップ・デバイスが社内ネットワーク内に存在している場合でもそのデバイスへの保管時に、バックアップを暗号化する必要があると規定されている場合は、プライマリ・バックアップとセカンダリ・コピーの両方を暗号化することが役に立ちます。

ジョブ・レベルの暗号化設定は、バックアップ詳細設定セットで指定します。バックアップ・ジョブの詳細設定セットの作成について詳しくは、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

プライマリ・バックアップの暗号化

プライマリ・バックアップのジョブ・レベルの暗号化を有効にするには：

- 1 バックアップ・ジョブ・ウィザードを開始して、**[詳細設定]** ページを開きます。
詳しくは、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。
- 2 **[詳細設定]** をクリックします。
- 3 **[詳細設定]** ダイアログ・ボックスで、**[暗号化の有効化]** チェック・ボックスを選択します。

セカンダリ・コピーの暗号化

NetVault は、セカンダリ・コピーを作成するために以下の手段を提供しています。

- **複製**：複製方式では、元のバックアップにリンクしている正確なコピーを作成します。この方式では、バックアップがセグメントに分割されて、それらのセグメントがストレージ・デバイスにコピーされます。リストア時に、プライマリ・バックアップおよびセカンダリ・コピーのセグメントは交換できます。リストア時に暗号化されていないセグメントと暗号化されたセグメントを混在させることはできないため、複製時に暗号化の有効または無効を指定することはできません。複製方式では、元のセーブセットが暗号化されている場合、暗号化されたコピーが作成されます。元のセーブセットが暗号化されていない場合、暗号化されていないコピーが作成されます。
- **データ・コピー**：データ・コピー方式では、バックアップがセグメントに分割されて、それらのセグメントがバックアップ・デバイスにコピーされます。リストア時には、プライマリ・バックアップまたはセカンダリ・コピーのどちらかを使用してデータが復元されます。プライマリ・バックアップとセカンダリ・コピーのセグメントは交換不可能です。そのため、プライマリ・コピーが暗号化されていなくてもデータ・コピーで暗号化を使用できます。これは、プライマリ・バックアップで重複排除オプションを使用する場合に役立ちます。

セカンダリ・コピーのジョブ・レベルの暗号化を有効にするには：

- 1 バックアップ・ジョブ・ウィザードを開始して、**[詳細設定]** ページを開きます。
詳しくは、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。
- 2 **[セカンダリ・コピー]** をクリックします。
- 3 **[セカンダリ・コピー]** ダイアログ・ボックスで、**[セカンダリ・コピーの作成]** チェック・ボックスを選択します。
- 4 **[セカンダリ・コピーのみ暗号化]** チェック・ボックスを選択します。
このオプションは、**[データ・コピー]** を選択した場合にのみ利用できます。

i

重要:

- プライマリ・コピーが暗号化されている場合、データ・コピー方式では、**[セカンダリ・コピーのみ暗号化]** チェック・ボックスが選択されているかどうかに関係なく、暗号化されたセーブセットが自動的に作成されます。したがって、このオプションが役立つのは、暗号化されていないプライマリ・コピーを暗号化してセカンダリ・コピーを作成するときだけです。
- データ・コピーで**[セカンダリ・コピーのみ暗号化]** チェック・ボックスを選択した場合、暗号化されたプライマリ・バックアップは再暗号化されません。
- 暗号化されたデータ・コピーからデータをリストアするには、プライマリ・コピーの暗号化キーを使用する必要があります。

Plug-in for Databases の使用

- デフォルト設定の構成
- NetVault データベースのバックアップ
- NetVault データベースのリストア

デフォルト設定の構成

Plug-in for Databases のデフォルト設定を構成するには：

- 1 バックアップ・ジョブ・ウィザードを開始して、**[セクション]** リストの隣りにある **[新規作成]** をクリックします。NetVault サーバーまたはクライアント・ノードを開きます。**[NetVault データベース]** を選択して、**[設定]** をクリックします。

デフォルト設定は、**[設定変更]** ページからも設定できます。**[ナビゲーション]** パネルで、**[設定変更]** をクリックします。**[設定]** ページで **[サーバー設定]** をクリックし、**[NetVault サーバー設定]** ページで **[プラグイン・オプション]** をクリックします。

- 2 **[NetVault データベース・バックアップ]** で、以下の設定を行います。

オプション	説明
警告が出る前のデータベース・デバイスの最小空きスペース	<p>この設定は、dbディレクトリが存在しているドライブまたはパーティションに必要な最小空きディスク容量を示しています。デフォルト値は、NetVaultデータベースの合計サイズの20パーセントです。</p> <p>この制限値を変更するには、新たな値を入力または選択します。</p> <p>利用可能な空きスペースが指定レベルを下回ると、警告メッセージがログに記録されます。</p>
警告が出る前のログ・デバイスの最小空きスペース	<p>この設定は、logsディレクトリが存在しているドライブまたはパーティションに必要な最小空きディスク容量を示しています。デフォルト値は、ログ・ファイルの合計サイズの10パーセントです。</p> <p>この設定を変更するには、新たな値を入力または選択します。</p> <p>利用可能な空きスペースが指定レベルを下回ると、警告メッセージがログに記録されます。</p>

オプション	説明
警告が出る前のレポート・デバイスの最小空きスペース	<p>この設定は、reportsディレクトリが存在するドライブまたはパーティション上に必要なディスクの最小空き容量を指定します。デフォルト値は、レポート・データベースの合計サイズの10パーセントです。</p> <p>この設定を変更するには、新たな値を入力または選択します。</p> <p>利用可能な空きスペースが指定レベルを下回ると、警告メッセージがログに記録されます。</p>
NetVaultデータベースのバックアップ中に使用するフォーマット	<p>NetVaultデータベースのバックアップは、tarおよびcustomフォーマットで生成できます。デフォルトでは、customフォーマットが使用されます。</p> <p>tarフォーマットには、以下の制限があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> バックアップ中、一時ファイルを格納するため、大きなディスク容量が必要です。NetVaultのインストール・ディレクトリのtmpディレクトリにファイルを格納するための十分なスペースがないと、バックアップに失敗する可能性があります。 テーブル・サイズの制限は8GBです。サイズが8GBを超えるデータベース・テーブルは、このフォーマットを使用してバックアップできません。

3 [OK] または [実行] をクリックして設定を保存します。

NetVault データベースのバックアップ

NetVault サーバーを保護するには、NetVault データベースの定期的なバックアップが必要です。NetVault データベースのバックアップが存在すれば、何らかの災害が発生した際に NetVault サーバーのリカバリが可能となります。他のすべてのジョブの完了後に、NetVault データベースのバックアップを毎日実行するようにスケジュールできます。このようなバックアップ専用のメディアまたはメディア・グループを使用してください。

- i** **メモ**：データベースの不整合やジョブの障害が発生しないよう、次の操作は同時に実行しないでください。
- NetVaultデータベースのバックアップ
 - ジョブの実行
 - メディアのスキャン

NetVault データベースをバックアップするには：

- [ナビゲーション] パネルで、[バックアップ・ジョブ作成] をクリックします。
[ガイド付き設定] リンクからウィザードを開始することもできます。[ナビゲーション] パネルで、[ガイド付き設定] をクリックして、次に [NetVault 設定ウィザード] ページで [バックアップ・ジョブ作成] をクリックします。
- [ジョブ名] に、ジョブの名前を指定します。ジョブの進行やデータのリストア状態を監視する際に識別しやすい、分かりやすい名前を割り当てます。
ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。また、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にするをお勧めします。
- [セクション] リストで既存のバックアップ・セクション・セットを選択するか、以下の手順に従ってセットを作成します。
 - [新規作成] をクリックして、[NetVault セクション] ページを表示します。
 - NetVault サーバー・ノードを開いて、プラグインのリストから [NetVault データベース] を開きます。
 - [NetVault データベース] ノードを選択します。

- d **【保存】** をクリックして、**【新規セットの作成】** ダイアログ・ボックスにセットの名前を入力します。**【保存】** をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

i **メモ**：セット名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Linux OS の場合、名前は最大で 200 文字です。Windows OS の場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にするをお勧めします。

- 4 **【プラグイン・オプション】** リストで既存のバックアップ・オプション・セットを選択するか、以下の手順に従ってセットを作成します。
 - a **【新規作成】** をクリックして、**【NetVault データベース・バックアップ・オプション】** ページを表示します。
 - b 以下の設定を行います。
 - **【バックアップの前にデータベース・テーブルをチェックする】**：このオプションを使って、バックアップ前に、スケジューラおよび Media データベース用の構造、エンティティ、および参照整合性を検証することができます。これは、処理中に何らかの不整合を検出すると、警告またはエラーのログを生成します。
このオプションはデフォルトで選択されています。
 - **【バックアップ中にオンライン・インデックスを除外する】**：このオプションは、オンライン・バックアップ・インデックス（ローカルのファイルシステムに保存されるバックアップ・インデックス）を NetVault データベース・バックアップから除外して、必要なバックアップ・ウィンドウ内で NVDB バックアップを完了させる場合に使用できます。
このオプションはデフォルトで無効になっています。
 - **【バックアップ中にカタログ・データベースを除外する】**：このオプションは、カタログ検索データベースを NetVault データベース・バックアップから除外して必要なバックアップ・ウィンドウ内で NVDB バックアップを完了する場合に使用できます。
このオプションはデフォルトで無効になっています。
 - c **【保存】** をクリックして、**【新規セットの作成】** ダイアログ・ボックスにセットの名前を入力します。**【保存】** をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。
- 5 スケジュール・セット、ターゲット・セット、および詳細設定セットを選択または作成します。これらの設定についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。
- 6 ジョブ実行をスケジュールするには、**【保存 & 実行】** をクリックします。**【ジョブ・ステータス】** ページではジョブの進捗をモニタしたり、**【ログ】** ページではログを参照表示することができます。
スケジュールしないでジョブ定義を保存するには、**【保存】** をクリックします。このジョブは、**【ジョブ定義管理】** ページから、表示、編集、または実行することができます。実行しない限り、**【ジョブ・ステータス】** ページにこのジョブは表示されません。
【ジョブ・ステータス】、**【ログ参照】**、**【ジョブ定義管理】** についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

NetVault データベースのリストア

以下の目的で、NetVault データベースのバックアップをリストアすることができます。

- NetVault サーバーを回復する。
- NetVault システムを新しいマシンに移行する。
- NetVault のアップグレード時にシステム設定を移行する。

NetVault データベースのバックアップのリストアには、以下の手順が含まれます。

- [前提条件](#)
- [リストア手順](#)

前提条件

リストアを開始する前に、以下の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- ターゲット・システムに対する、NetVault サーバーのインストール。ソフトウェアのバージョンは、オリジナルのサーバーと同じものである必要があります。
- バックアップ・デバイスを NetVault サーバーに追加する。この手順についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。
- バックアップ・メディアの読み込み。新規の NetVault ドメインでは、メディアは「Foreign」としてマークされます。コンテンツをロードするには、メディアをスキャンする必要があります。この手順についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。
- NetVault データベースのバックアップを代替バックアップ・サーバーにインポートしてリストアする場合、代替 NetVault サーバーの NetVault マシン名を、バックアップを実行した元のサーバーと同じにする必要があります。
- カタログ検索データベースを含む NetVault データベースのバックアップをリストアする前に、カタログ検索をインストールして有効にすることをお勧めします（NetVault の新規インストールの場合、または以前にインストールしたカタログ検索をアンインストールしている場合）。

i **メモ：** カタログ検索データベースが NetVault データベースのバックアップに含まれている場合でも、カタログ検索のインストールおよび設定は NetVault データベースの他の部分とは別に実行されます。したがって、NetVault データベースのリストア中、カタログ検索の現在の状態（有効または無効）と設定は変更されません。




リストア手順

NetVault データベースのバックアップをリストアするには：

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[リストア・ジョブ作成] をクリックします。

[リストア・ジョブ作成 - セーブセットの選択] ページで、セーブセット・テーブルは利用可能なセーブセットを一覧表示します。このテーブルには、セーブセット名（ジョブ・タイトルとセーブセット ID）、作成日時、セーブセットのサイズ、およびセーブセットのステータスが表示されます。

セーブセットのステータスは、以下のアイコンを使って示されます。

アイコン	説明
	セーブセットがオンラインです(すべてのセグメントがオンラインです)。
	セーブセットの一部がオンラインです(一部のセグメントがオンラインです)。
	セーブセットがオフラインです(すべてのセグメントがオフラインです)。

このセーブセット・リストはセーブセット名のアルファベット順にソートされています。列見出しをクリックすることで、別の列でソートしたり、ソート順序を逆にしたりすることができます。列名の隣りにある矢印はソート順序を表しています。

[さらにロード] をクリックすると、使用可能な場合は、次のレコード・セットをロードできます。ロード・アクションごとに、最大 5000 レコードが取得されます。それ以上ロードするレコードがない場合は、このボタンは無効になります。

デフォルトでは、テーブルは作成日時でソートされます。必要に応じて、1 つまたは複数の列でテーブルをソートできます。

NetVault ビルトイン・プラグイン Web アプリケーションでは、テーブルの複数列のソートがサポートされます。ただし、最初にソートした列が、その他の列のソートより優先されます。たとえば、「開始時

刻」をプライマリ・ソートとしてテーブルをソートする場合、「ID/ インスタンス/ フェーズ」列でソート・オプションを選択しても、リストの順序には影響しません。

1つの列でソートするには、列見出しをクリックします。ソート方向を変更するには、列見出しを再度クリックします。テーブルをソートするために使用するその他の列で、この手順を繰り返します。

列名の横にある矢印は、ソート順（上向きの場合は昇順、下向きの場合は降順）を表しています。青い矢印は、プライマリ列のソート順を示すために使用されています。

ソートを解除するには、矢印が表示されなくなるまで、該当する列の列見出しをクリックします。

列で以下の処理を選択するには、列メニューをクリックします。

オプション	説明
並び替え(昇順)	列を昇順でソートします。
並び替え(降順)	列を降順でソートします。
列	必要な列の表示/非表示を選択または選択解除します。

フィルタ・オプションの設定、ページ・サイズ設定やテーブル内のソート順の表示、レコードのエクスポート、テーブル設定の編集を行うには、テーブルの右下隅にあるアイコンをクリックします。

詳しくは、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』の「NetVault WebUI でのテーブルのカスタマイズ」セクションを参照してください。

- 2 使用するセーブセットを選択して、[次へ] をクリックします。

セーブセットを選択すると、以下の情報が [セーブセット情報] に表示されます。ジョブ ID、ジョブ・タイトル、タグ、サーバー名、クライアント名、プラグイン名、セーブセットの日時、リタイア設定、増分バックアップかどうか、アーカイブかどうか、セーブセットのサイズなど。

- 3 [セレクション・セット作成] ページで、データベース全体またはその一部を復元するためのデータベース・コンポーネントを選択します。

コンポーネント	説明
オーディタ・データベース	オーディタ・データベースをリストアします。このデータベースは、NetVaultシステムの監査ログを含んでいます。
バックアップ・カタログ	カタログ検索データベースをリストアします。 カタログ検索データベースを除外してNetVaultデータベース・バックアップのみをリストアするには、[セレクション・セット作成] ページで [バックアップ・カタログ] オプションを選択しないでください。 カタログ検索データベースとともにNetVaultデータベース・バックアップのみをリストアするか、カタログ検索データベースのみをリストアするには、[セレクション・セット作成] ページで [バックアップ・カタログ] オプションを選択します。 メモ: NVDBバックアップ中に [バックアップ中にカタログ・データベースを除外する] を有効にした場合、リストアする [セレクション・セット作成] ページのリストアするコンポーネントのリストには [バックアップ・カタログ] オプションが表示されません。
バックアップ・インデックス	バックアップ・インデックスをリストアします。 バックアップ・インデックスには、バックアップ・アイテムの一覧およびその参照が含まれています。各インデックスにはセーブセット番号が割り当てられています。バックアップ・インデックスは、バックアップ・メディアおよびディスクにMedia Databaseの一部として保管されます。インデックスは個別のバックアップ・アイテムの位置を提供しています。これにより、バックアップ・メディアからそれらを復元することができます。

コンポーネント	説明
	<p>メディア上のこのインデックスをバックアップすることにより、インデックス・ファイルが消失したりMedia Databaseからリタイアされた場合でも、必要に応じて各セーブセットのコンテンツを確実に表示することができます。バックアップ・インデックスは、NetVaultデータベースからリタイアまたは削除した後でも、アーカイブ・メディアからスキャンできます。</p> <p>メモ: NVDBバックアップ中に[バックアップ中にオンライン・インデックスを除外する]が有効にされた場合、リストアする[セクション・セット作成]ページのリストアするコンポーネントのリストには[バックアップ・インデックス]オプションが表示されません。</p>
クラスタ Configuration	<p>クラスタ固有設定、および関連クライアント情報をリストアします。</p> <p>設定ファイル、サーバーおよびクライアント・システムの設定をリストアします。これには、ネットワーク・アクセスおよびプラグインの設定情報が含まれます。</p>
展開マネージャ	<p>パッケージ・ストア、タスクの詳細、ステータス、およびスケジュールなどの展開関連情報をリストアします。</p> <p>メモ: このコンポーネントを選択しない場合、展開に関連する詳細はリストアされず、失われます。</p>
全般レポート・ファイル ライセンス	<p>レポート・システムに含まれるファイルをリストアします。</p> <p>ライセンスをリストアし、NetVaultとライセンス済みプラグインの継続使用を許可します。NetVaultサーバーにマシン関連ライセンスがあり、リストアが実行されたマシンのマシンIDが異なる場合は、新しいマシン関連ライセンス・ファイルを手動で取得してインストールする必要があります。</p>
ログ	<p>NetVaultログをリストアします。このログには、サーバーおよびクライアント・マシンからのすべてのメッセージが含まれています。また、特定の時点におけるNetVaultのアクティビティを確認することができます。</p>
メディア・マネージャ	<p>Mediaデータベースをリストアします。これには、すべてのアクティブ・メディア、すべてのバックアップ・コンテンツ、バックアップがどのように構成され、どこに配置されているかが記録されています。</p>
スケジュール・マネージャ	<p>スケジュール・データベースをリストアします。このデータベースにはすべての定義済みジョブ、バックアップ・ポリシー、スケジュール済みジョブとジョブ履歴のレコードが含まれ、ジョブの最終実行時刻やどのようなバックアップが作成されたかが記録されます。</p>
スクリプト	<p>NetVaultのシステム定義およびユーザー定義スクリプトをリストアします。</p>

i | **メモ:** 個別のコンポーネントを選択して NetVault データベース・バックアップの一部をリストアすると、データベースに不整合が発生する可能性があります。

- 4 [セクション・セット作成] ページで、[プラグイン・オプションの編集] をクリックします。
 - 5 以下のオプションを設定します。
 - [リストア前にデータベース・テーブルのレポートを空白にする]: デフォルトでは、NetVault データベースのリストア時に、レポート・データベース内の既存のデータが削除されます。レポート・データ内の既存のデータを保持する場合は、このチェック・ボックスの選択を解除します。
- [OK] をクリックして設定を保存し、[次へ] をクリックします。
- 6 [リストア・ジョブ作成] ページで、ジョブ名を指定します。ジョブの進行状況を監視する際に識別しやすい、分かりやすい名前を割り当てます。
- ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。また、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にするをお勧めします。

- 7 **【ターゲット・クライアント】** リストでデフォルトでは、データをバックアップしたクライアントが選択されています。この設定は変更しないようにする必要があります。
- 8 スケジュール・セット、リストア・ソース・セット、および詳細設定セットを選択または作成します。これらの設定についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレータズ・ガイド』を参照してください。
- 9 **【実行】** をクリックして、スケジュール設定のためにジョブを送信します。

i | **重要:** リストア・ジョブの送信後に、WebUIを終了します。このジョブの実行中は、ジョブのステータスを監視しないでください。
リストア・ジョブが完了すると、NetVaultサービスは停止します。Txtconfigまたはコマンドライン・インターフェイスから、手動でサービスを再起動する必要があります。

i | **メモ:** NVDB のリストア後にカタログ検索と postgres データベースが同期されるようにするには、**【カタログ検索の設定】** ページの **【既存のバックアップをカタログに追加する】** オプションを選択する必要があります。

Plug-in for Raw Devices の使用

- Raw デバイスのバックアップ
- Raw デバイス・バックアップのリストア
- 他のディスクおよびパーティションへのデータのリロケート
- 他の NetVault クライアントへのデータのリストア

Raw デバイスのバックアップ

Raw デバイスのバックアップには、以下の手順が含まれています。

- 前提条件
- バックアップ手順

前提条件

バックアップを開始する前に、以下の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- **Linux および UNIX システム :**
 - バックアップするディスクのファイル・システムをマウント解除します。
- **Windows システム :**
 - バックアップ対象ディスクが使用されていないことを確認します。
 - エクスプローラ・ウィンドウをすべて閉じます。
 - ディスク管理ユーティリティが動作している場合は、それを終了します。

i **メモ :** Windows では、Plug-in for Raw Devices を使用して、GPT (GUID パーティション・テーブル) スタイルのパーティションをバックアップすることはできません。プラグインは、MBR (マスター・ブート・レコード) スタイルのパーティションのバックアップにのみ使用することができます。
Linuxでは、Plug-in for Raw Devicesを使用して、GPTスタイルのパーティションをバックアップすることができます。

バックアップ手順

Raw デバイスをバックアップするには :

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[バックアップ・ジョブ作成] をクリックします。
[ガイド付き設定] リンクからウィザードを開始することもできます。[ナビゲーション] パネルで、[ガイド付き設定] をクリックして、次に [NetVault 設定ウィザード] ページで [バックアップ・ジョブ作成] をクリックします。

- 2 **[ジョブ名]** に、ジョブの名前を指定します。ジョブの進行やデータのリストア状態を監視する際に識別しやすい、分かりやすい名前を割り当てます。

ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。また、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40文字以内にするをお勧めします。

- 3 **[セレクション]** リストで既存のバックアップ・セレクション・セットを選択するか、以下の手順に従ってセットを作成します。

- d **[新規作成]** をクリックして、**[NetVault セレクション]** ページを表示します。
- a NetVault サーバー・ノードを開いて、プラグインのリストから **Raw デバイス**を開きます。
- b バックアップするデータを選択します。

LinuxおよびUNIX (Mac OS Xを含む)

- a rootディレクトリ・ノードを開いてディレクトリ・ツリーを表示します。
- b **[/dev]**ノードを開いて、ディスクを選択します。
- c バックアップするパーティション・デバイス・ファイルを選択します。

Windows

- **物理ディスク全体をバックアップ** : **[物理ディスク <n>]** ノードを選択します。
 - **マスター・ブート・レコード (MBR) とシステム・パーティションをバックアップ** : **[物理ディスク <n>]** ノードを開いて、**[マスター・ブート・レコード & システム・パーティション]** ノードを選択します。
 - **個別のパーティションをバックアップ** : **[物理ディスク <n>]** ノードを開いて、バックアップする **[パーティション <n>]** ノードを選択します。
- c **[保存]** をクリックして、**[新規セットの作成]** ダイアログ・ボックスにセットの名前を入力します。**[保存]** をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

i **メモ** : セット名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Linux OS の場合、名前は最大で 200 文字です。Windows OS の場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にするをお勧めします。

- 4 **[プラグイン・オプション]** リストで既存のバックアップ・オプション・セットを選択するか、以下の手順に従ってセットを作成します。

- a **[新規作成]** をクリックして、**[Raw Partitions Backup Options]** ページを表示します。
- a Windows ベースのクライアントで以下の設定を行います。

- **[レポートされたディスク・サイズのバックアップ]** : デフォルトでは、プラグインは OS からディスクのサイズを取得し、報告されたサイズ分のデータをバックアップします。このオプションを用いると、報告されたものと同じサイズであれば、たとえ実際のデータのサイズが異なっても、データを任意の物理ディスクにリストアすることができます。
- **[コンテンツ全体をバックアップ]** : このオプションを選択すると、実際の値と報告されたディスク・サイズが異なっても、報告されたディスク・サイズにかかわらず、コンテンツ全体をバックアップできます。

- b **[保存]** をクリックして、**[新規セットの作成]** ダイアログ・ボックスにセットの名前を入力します。**[保存]** をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

- 5 スケジュール・セット、ターゲット・セット、および詳細設定セットを選択または作成します。これらの設定についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。
- 6 ジョブ実行をスケジュールするには、**[保存 & 実行]** をクリックします。**[ジョブ・ステータス]** ページではジョブの進捗をモニタしたり、**[ログ]** ページではログを参照表示することができます。

スケジュールしないでジョブ定義を保存するには、[保存] をクリックします。このジョブは、[ジョブ定義管理] ページから、表示、編集、または実行することができます。実行しない限り、[ジョブ・ステータス] ページにこのジョブは表示されません。

[ジョブ・ステータス]、[ログ参照]、[ジョブ定義管理] についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレータズ・ガイド』を参照してください。

Raw デバイス・バックアップのリストア

Raw デバイス・バックアップのリストアには、以下の手順が含まれます。

- 前提条件
- リストア手順

前提条件

リストアを開始する前に、以下の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- **ディスク全体をリストア**：ターゲット・ディスクをマウント解除します。ターゲット・ディスクのサイズが、ソース・ディスクと同じかそれ以上のサイズであることを確認します。
- **個別パーティションをリストア**：Windows で、ターゲット・パーティションのサイズがソース・パーティション・サイズと同じであることを確認します。サイズが異なるパーティションにデータをリストアすると、リストアの終了時に、「**リストアのパーティションが、バックアップ・パーティションの容量と異なります**」というメッセージが表示されます。このようなリストアでは、再インストールや再フォーマットが必要になることがあります。

この要件は、Linux および UNIX システムには適用されません。

i **メモ**：Plug-in for Raw Devices は、クロスプラットフォームでのリストアは行えません。Windows クライアントの Raw デバイス・バックアップを Linux クライアントにリストアすること、または Linux クライアントの Raw デバイス・バックアップを Windows クライアントにバックアップすることはできません。

リストア手順

Raw デバイス・バックアップをリストアするには：

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[リストア・ジョブ作成] をクリックします。セクション「リストア手順」のステップ 1～ステップ 2 を実行します。
- 2 [セレクション・セット作成] ページで、リストアするディスクを選択します。または、親ノードを開いて、リストアするパーティションを選択します。

[保存] をクリックして設定を保存し、[次へ] をクリックします。

- 3 [リストア・ジョブ作成] ページで、ジョブ名を指定します。ジョブの進行状況を監視する際に識別しやすい、分かりやすい名前を割り当てます。

ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。また、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にするをお勧めします。

- 4 [ターゲット・クライアント] リストでデフォルトでは、データをバックアップしたクライアントが選択されています。この設定は変更しないようにする必要があります。

- 5 スケジュール・セット、リストア・ソース・セット、および詳細設定セットを選択または作成します。これらの設定についての詳細は、『Quest NetVault アドミニストレータズ・ガイド』を参照してください。
- 6 **[実行]** をクリックして、スケジュール設定のためにジョブを送信します。

**重要:**

- リストアの実行中は、対象ドライブにアクセスしないよう注意してください。そうした行為を行うと、ジョブが失敗し、パーティション・データが破壊されます。
- ジョブ・ステータスを表示するには、NetVault WebUIを使用します。
- Windowsクライアントでリストアが完了したら、マシンを再起動します。マシンを再起動するまでは、リストアしたデータを表示または参照しないでください。

追加説明

リストア・ジョブで MBR と 1 つ以上のパーティションを選択すると、MBR は正常にリストアされますが、選択したパーティションのリストアは失敗し、ジョブの終了時に警告（「ディスク <n> のパーティション <n> の情報を取得できませんでした」）が表示されます。リストアされた MBR に関する情報が Windows で更新されなかったため、プラグインはパーティション情報を取得できません。

MBR および 1 つ以上のパーティションをリストするには、次の手順を実行します。

- 1 MBR をリストアします。
- 2 Windows のディスクの管理ユーティリティを開始します。**[最新の情報に更新]** コマンドを使用して、Windows の MBR 情報を更新します。
- 3 個別のパーティションをリストアします。

他のディスクおよびパーティションへのデータのリロケート

既存のデータを上書きせずに Raw デバイス・バックアップをリストアするために、クライアント上の別のディスクまたはパーティションにデータをリロケートすることができます。オリジナルのディスクが利用できないまたは壊れた場合にも、この手順を使用することができます。

**重要:**

- Windows の場合は、個々のパーティションを再作成することなく、MBR を他のディスクにリストアできます。
- MBR は任意のディスクにリロケートすることができますが、そのディスク上のゼロ (0) パーティションにコピーされなければなりません。
- バックアップのリロケート先となるディスクあるいはパーティションを指定するには、ディスクおよびパーティション番号を使用します。

他のディスクおよびパーティションにデータをリロケートするには：

- 1 リストア・ウィザードを開始して、リストアするデータを選択します。詳細は、セクション「[Raw デバイス・バックアップのリストア](#)」のステップ 1～3 を参照してください。
- 2 名前を変更またはリロケートするディスクまたはパーティションを選択して、**[名前変更]** をクリックします。
- 3 **[名前変更 / 再配置]** ダイアログ・ボックスで、以下の情報を指定します。
 - **Linux および UNIX**：新しいディスクへのフル・パスを入力します。

- **Windows** : データを他のディスクにリロケートする場合は、対象となるディスク番号を入力します。たとえば「Disk 1」あるいは「1」と入力します。

データを他のパーティションにリロケートさせる場合は、対象となるディスク番号およびパーティション番号を入力します。たとえば「Disk 1 Partition 4」あるいは「1 4」と入力します。

[OK] をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

ダイアログ・ボックスを閉じると、プラグインはセレクション・ツリー内の対応するノードを更新して、ディスクまたはパーティションの新しい場所を表示します。

- 4 セクション「Raw デバイス・バックアップのリストア」のステップ 3～7 を実行します。

他の NetVault クライアントへのデータのリストア

Raw デバイス・バックアップをリストアする場合、別のクライアントにデータをリロケートすることができます。この手順は、サーバー移行やディザスタ・リカバリ操作時に役立ちます。

他のクライアントへの Raw デバイス・バックアップのリストアには、以下の手順が含まれます。

- [前提条件](#)
- [リストア手順](#)

前提条件

リストアを開始する前に、以下の条件を満たしていることを確認する必要があります。

- ターゲット・システムに NetVault サーバーまたはクライアント・ソフトウェアをインストールすること。
- NetVault サーバーにターゲット・クライアントを追加します。

リストア手順

他のクライアントにデータをリロケートするには :

- 1 セクション「Raw デバイス・バックアップのリストア」のステップ 1～4 を実行します。

- 2 [ターゲット・クライアント] リストで、リストア・ターゲットを選択します。

または、[選択] をクリックして、[クライアント指定選択] ダイアログ・ボックスでリストア・ターゲットを選択します。[OK] をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

- 3 セクション「Raw デバイス・バックアップのリストア」のステップ 6 と 7 を実行します。

i **メモ** : 他のクライアントにデータをリストアする際にも、[再配置] オプションを使用することができます。これらのオプションについての詳細は、「他のディスクおよびパーティションへのデータのリロケート」を参照してください。

Quest は、急速に変化する企業 IT の世界にソフトウェア・ソリューションを提供します。データの急増、クラウドの拡張、ハイブリッド・データセンター、セキュリティの脅威、規制要件によって生じる課題を簡素化することができます。弊社は、Fortune 500 の 95% の企業および Global 1000 の 90% の企業など、100 か国におよぶ 130,000 社にサービスを提供するグローバル・プロバイダーです。1987 年以來、データベース管理、データ保護、ID およびアクセス管理、Microsoft のプラットフォーム管理、統合エンドポイント管理などのソリューションのポートフォリオを構築してきました。Quest により、組織は IT 管理に費やす時間を短縮し、ビジネスの革新に費やす時間を増やすことができます。詳しくは、以下を参照してください。www.quest.com

テクニカル・サポート用リソース

テクニカル・サポートは、Quest の有効な保守契約を締結している場合、または試用版を保有している場合にご利用いただけます。Quest サポート・ポータル (<https://support.quest.com/ja-jp>) にアクセスすることができます。

サポート・ポータルには、問題を自主的にすばやく解決するためのセルフヘルプ・ツールがあり、24 時間 365 日ご利用いただけます。サポート・ポータルでは次のことを実行できます。

- サービス・リクエストの送信と管理。
- ナレッジベース記事の参照。
- 製品に関するお知らせへの登録。
- ソフトウェアと技術文書のダウンロード。
- 入門ビデオの視聴。
- コミュニティ・ディスカッションへの参加。
- サポート・エンジニアとのオンライン・チャット。
- 製品に関する支援サービスの表示。